

暑さの厳しかった夏も終わり、子供たちは再び元気に学校に通う季節となりました。夏休み期間で生活リズムが変わってしまい、なかなかペースを取り戻せず、親御さんも一緒に苦労するケースもよく聞きます。このように周りの状況や環境が変われば、それまでのリズムを持続することが困難となります。鉄道に置き換えると、取り巻く状況の変化に適切に対応をし、設備の維持や利用者へのサービスを持続することが必要です。

さて、今月号は軌道の分野に着目し「持続可能な線路をめざして」と題して、検査の省力化と高度化、作業の省力化と脱技能化、材料のコスト低減と安定供給に関する取り組みや将来的

な展望をはじめとして、スキルフリー化を目指したレールガス圧接技術、作業の省力化を目的としたレール防食工法やてん充道床軌道、またPCまくらぎ化の計画策定支援システムや異なる保守用車を組み合わせた軌道保守の効率化および管理コストの削減などの技術開発について紹介しました。

来月号の特集は、「鉄道の振動技術」です。鉄道車両や構造物の状態監視や異常検知への活用が期待される技術であり、鉄道車両、施設から地盤などのさまざまな分野における振動の対策・検知・予測技術についての取り組みを紹介します。来月号どうぞご期待ください。(Y.T.)